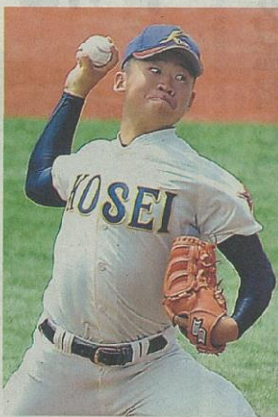
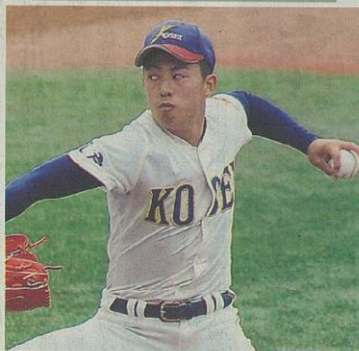


# 夏「背番号1譲れない」

## 光星、県南育ち2投手闘志



決勝の仙台育英戦で2回を三者凡退に抑え、好投した福山選手



向井詩恩投手(3年)

決勝の仙台育英戦で先発し、6回を1失点に抑えた向井選手＝12日、宮城県石巻市民球場

福山優希投手(2年)

福山選手は小中学時代から、八戸市のリトルリーグ・シニアで硬式野球に触れてきた。「小2の時、たまたまバッティングセンターに連れて行ったら、よくバットに当たった」と文・健一さん(47)。「鬼ノック」で自ら息子を鍛えた時期もあったという。

一方、東北町出身の向井選手は中学まで軟式一本。5歳でグラブを買ってもらったと、野球に没頭した。母・千鶴さん(38)は「漫画もゲームも全て野球。中継が始まるとテレビの前で、画面に映るキャッチャーのサインに首を振ったりしていた」と笑う。

2016年秋、八学光星の「1」は向井選手が背負っていた。しかし今春、腰を故障。エースナンバーは福山選手に移った。部員1

33人の甲子園常連校。戦力の入れ替えは日増しに厳格だ。

向井選手は、東北大会直前まで投球練習すらできず、県大会はベンチ外で応援。一方で福山選手は登板こそ増えたものの、大事な場面で打たれるなど、思うように力を出せず苦しんでいた。

迎えた東北大会で、先に結果を出したのは向井選手だった。復帰初戦の明桜(秋田)戦で好投。翌日、福山選手は宿泊先のホテルで読んだ新聞に動揺した。「記事に『エース向井』とあり、恥ずかしくて悔しかった」

12日の決勝。敗れたのはものの、2人の継投で仙台育英の強力打線を1点に抑えた。六回終了で降板を告げられた向井選手はベンチ前で「味方が必ず点を取ってくれるから、0点に抑えてくれ」と声を掛けた。無言のまま、強くうなずいた福山選手は、2回をいすれも三者凡退に切っ取り、現エースの意地を見せた。

夏本番に向け、激化する背番号1の争奪戦。選手層が厚い八学光星で、エース

### 春季東北 新旧エース 準V導く 高校野球

宮城県で12日に幕を閉じた第64回春季東北高校野球大会。八戸学院光星高校を準優勝に導いた二枚看板は、ともに県南育ちのライバル同士だ。現エースの福山優希選手(2年)と八戸・市川中出と、けがから復帰した前エース・向井詩恩選手(3年)。「二沢」中出は、ベンチ入り20人に食い込んだ数少ない本県出身者。夏の甲子園選に向け、互いに「背番号1は譲れない」とエース争いに闘志を見せている。(佐々木大輔、工藤俊介)

【本記13画】

を狙う投手は少なくない。仲井宗基監督(47)は「背番号1は一つしかないが、皆がエースのつもりで投げてほしい」と語る。

ライバルとして切磋琢磨する2人。「向井さんに負

けず、夏も背番号1を守りたい」と福山選手。向井選手は「自分以外の背中には『1』があるのは悔しい。甲子園を目指す夏の全国高校野球選手権青森大会は、7月15日に開幕する。」